

育児奨励休暇、配偶者出産休暇



東海ゴム工業株式会社

人事総務部 企画課長
藤門 真二さん

企業プロフィール

- 事業内容：工業用ゴム製品の製造・販売
- 従業員数：2,935名(2012年3月31日現在)
- URL：<http://www.tokai.co.jp/>

ワーク・ライフ・バランスに取り組み、 育児支援制度を拡充

実践！ こうすればできる！ こうすればのびる！

- ① 次代を担う社員のニーズに応える
- ② 休みやすい休暇を考える
- ③ わかりやすいPRで制度を普及

育児奨励休暇

育児奨励休暇は、男性社員の育児参加を促すために、子どもが1歳になるまでに連続5日の特別有給休暇を取得できる制度です。2008年に中期経営計画を策定していくなかで、ワーク・ライフ・バランスの向上に取り組むことになりました。今後グローバルに展開していくうえで、多様な人材活用が重要になりますが、そうした中で社業の中心になる20代後半から30代の社員が働きやすい環境を作る必要があると考えています。仕事も生活も充実させるためには、まずこの若い世代の関心事である育児と業務の両立を支えることが重要だろうという考えのもとに、育児支援制度の拡充を図ることになりました。

真っ先に考えたのは、男性が気兼ねなく育児に参加できるように、「育児休暇」の取得を増やすことでしたが、給与に影響がある育児休暇を男性が取得するケースはほ

とんどありません。そこで、男性が育児のために休暇を取得しやすいよう、新たな休暇制度の導入を検討しました。育児が大変な時期である、子どもが1歳になるまでの間に、有給の休暇として付与することにしました。当初は社のメッセージを伝えるために休暇の名称に「男性」という言葉をつけようとも思いましたが、産前産後休暇の後に育児休暇を取得しない女性も取得可能とし、「育児奨励休暇」の名称でスタートしました。

この休暇制度を導入した2008年には、関心を持ってもらえるように漫画仕立てのわかりやすい冊子を作成し、全社員に配布しました。また、社内イントラネット内に専用サイトを作り、実際に育児奨励休暇を取得した社員の感想も載せています。おかげさまで社員へは周知されており、休暇の取得者は増加しています。結果として取得者は全員男性。制度化したために休みやすくなったといえると思います。仕事の分担も問題なくできています。2010年の取得者は32名、2011年は31名です。

育児支援制度の拡充

そのほかにも男性社員向けに「配偶者出産休暇」を制定しています。配偶者の出産に際し、2日間の特別有給休

暇が取得できるというもので、出産の立ち会いや届出等の手続きのために取得することを想定しています。

従来からある「育児休暇」は最長1年6ヶ月であったものを、子どもの2歳の誕生日の前日までに延長しました。2010年、2011年ともに41名が取得しています。

「育児フレックスタイム」制度は、子どもが3歳になるまでだったのを、小学校卒業まで利用できるように延長しました。また育児休暇取得者の職場復帰を支援するために、インターネットを用いた「職場復帰支援プログラム」を新たに導入しました。

介護休暇制度の充実も図る

ワーク・ライフ・バランスの向上を図る上で、介護の問題も見過ごすわけにはいきません。育児対象者の支援だけではなく、従業員全体の平等性を確保するために、介

護のための施策も充実させています。

2005年から介護休暇の日数を最高365日に延長しました。また、休暇期間中の収入がゼロになることから、共済会(従業員の互助会)から基本月給の2/3(上限あり)を支給することで、安心して介護に臨める制度としました。2008年から「子の看護休暇」の対象を拡大し、従業員の配偶者、父母および配偶者の父母、同居の親族も対象にいれ、負傷または疾病の際に7日の休暇取得ができるようにしました。休暇日数は、法で定められた子の看護休暇より2日プラスしています。また「育児短時間勤務」とともに「介護短時間勤務」も導入し、働きやすい環境作りを支援しています。ただ現在のところ、介護が必要な世代は家庭内で何とか解決できているようで、制度の利用者は増えていませんが、今後、共働きが増えて、その親が介護年齢に達したときには状況が変化するかもしれません。



素材部 素材製造課
加門 幹裕さん
(育児奨励休暇)

育児奨励休暇は子の誕生から1年以内に取得することになっているので、子どもが1歳になる直前で取得しました。普段は交代勤務で子どもと触れ合う時間が不規則だったせいか、今まで私にはあまりなついてくれませんでした。ですから、子どもと一緒にいる時間をできるだけ長くしたかったので、休暇のほとんどを子どもと一緒に過ごしました。1泊2日で初めての家族旅行をしたり、デパートのキッズコーナーに出かけたり、この休暇は本当に「子どものため」に過ごしました。

休暇の申請はスムーズに受理してもらいました。子ど

もが産まれてすぐに休暇を取得する例が多い中で、1歳になる直前というタイミングでの休暇取得は、周りから羨ましがられました。妻の後ばかり追いかけて私の近くには来てくれなかった子どもとの距離が、この休暇取得中に一気に縮まったと実感しています。休暇明けの朝、出勤した私を子どもが探していたと妻から聞いた時は、本当に嬉しかったです。父親は母親よりも子どもと一緒にいる時間が少なくなりがちなので、子どものためにも時間をつくる必要だと感じました。男性には育児奨励休暇をぜひ利用してもらいたいと思います。

VOICE